

## 産業界等と連携した学びの実践事例

|          |   |  |   |
|----------|---|--|---|
| 学校名      | 岡山県立東岡山工業高等学校 ほか参加希望のあった工業系高校   |  |   |
| 実践場面     | 工業高校探究フェス in イオンモール岡山   |  |   |
| 実践日時（時期） | 令和7年10月25日（土）   |  |   |
| 対象生徒（学年） | 東岡山工業高校1～3年生全生徒、参加希望のあった高校の生徒   |  |   |
| 連携の形態    | <input type="checkbox"/> 包括連携協定（<br><input checked="" type="checkbox"/> その他（工業高校探究フェス実行委員会（東岡山工業高校、中国銀行、山陽新聞社、プローバ）が中心となって開催） |  |   |
| 学びの分類    | <input type="checkbox"/> 講演会講師・説明会<br><input type="checkbox"/> 商品開発・共同研究  | <input type="checkbox"/> 技術指導<br><input type="checkbox"/> 最新技術・設備の見学 | <input type="checkbox"/> 企業訪問・インターンシップ<br><input checked="" type="checkbox"/> その他 |

### 実践の内容

#### 【現状】

- 現在、各高校では探究活動に取り組んでおり、東岡山工業高校でも科目「課題研究」をはじめ、様々な場面で取り組んでいるが、広く学校外にも発信して意見をもらうことが大切である。
- そのような思いから、昨年度は校内で、企業説明会と「課題研究」の中間発表会を同時開催し、説明会に来た企業の方や保護者にも探究活動の成果を発表して意見をもらう機会を設けた。
- 一方で、県内各工業高校では入学希望者確保に苦慮しており、中学生等に対して探究活動を含めた工業の学びの魅力を発信していく必要がある。



#### 【実践内容】

- 広く学校外の方に見ていただくことを目的として、探究活動の成果発表の場を「イオンモール岡山」の未来スクエアで開催することとした。
- 東岡山工業の生徒は学科ごとにブースを設け、学年・グループで入れ替わりながら発表するとともに、代表生徒はステージ上でも発表した。
- 工業の学びの魅力発信の場ともなるよう、県工業教育協会の加盟校に呼びかけたところ、東岡山工業高校以外にも8校が参加を希望し、ブースやステージでの発表を行った。
- 企業の方にも参加いただけるよう、また生徒にとって企業を知る機会が得られるように、会場内には企業ブースも設けた。
- イベントの企画・運営は、東岡山工業高校の代表教員と（株）中国銀行、山陽新聞社等で構成する「工業高校探究フェス実行委員会」が行い、参加企業の募集・調整や会場の設営、当日の運営等は実行委員会の企業が中心となって行った。



### 実践による効果等

- 商業施設での大規模なイベントであるが、企業と連携することによって学校の負担を軽減しながら開催することができた。
- 多くの一般の方の前で発表することができ、多くの生徒から「良い経験ができた」「楽しかった」「企業を知ることができた。」という感想があった。
- 参加企業の事後アンケートで、イベントの満足度は概ね高評価を得た。